

# 資料 6

## 項目別取りまとめ表（案）



事業の進捗状況 (北海道地区)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 91%) (注1)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当り材積	不良	
			カラマツ	24.2m	29.0cm	279m <sup>3</sup>	広葉樹化	生育遅れ (注4)
			トドマツ	14.9m	20.3cm	214m <sup>3</sup>	20%	5%
			計				12%	3%
			平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンブル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。					15%

広葉樹林化ししたたたの生育が遅れている林分及びび遅れ原因の割合は54%と大きく、雪害が原因の割合は46%と大きい。雪害が原因の割合は69%と大きく、雪害が原因の割合は69%と大きい。

(注)生育状況の基準  
 良：植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。  
 不良：(a)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(d)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(e)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(f)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。

樹種	良	普通	広葉樹化	生育遅れ	生育状況		計
					小計	計	
スギ	100%	86%					100%
カラマツ	14%	100%					100%
トドマツ		100%					100%
アサマツ		100%					100%
その他							
計	15%	85%					100%

事業の進捗状況 (東北地区)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 87%) (注1)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当り材積	不良	
			スギ	14.7m	22.4cm	262m <sup>3</sup>	広葉樹化	生育遅れ (注4)
			マツ	14.1m	20.6cm	210m <sup>3</sup>	9%	7%
			カラマツ	15.6m	19.0cm	179m <sup>3</sup>	14%	1%
			計				11%	4%
			平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンブル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。					15%

広葉樹林化ししたたの生育が遅れている林分及びび遅れ原因の割合は75%と大きく、雪害が原因の割合は25%と大きい。雪害が原因の割合は25%と大きい。

(注)生育状況の基準  
 良：植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。  
 不良：(a)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(d)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(e)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。(f)植栽木の1ha当たり成立本数が限生立本数(森林調査限生立本数)以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均樹高を超過するもの。

樹種	良	普通	広葉樹化	生育遅れ	生育状況		計
					小計	計	
スギ	98%	100%					100%
マツ	38%	100%					100%
カラマツ	98%	100%					100%
その他							
計	90%	90%	7%	3%	10%		100%

樹種別に不良の割合をみると、スギで2%、マツで62%、カラマツで2%、樹種計で10%である。



<p>事業コスト削減の可能性</p>	<p>間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで、選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用したた強度な間伐等）することにより、契約相手がコスト削減を図る。</p>
<p>景観への配慮</p>	<p>適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等において、景観と森林整備の間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。</p>
<p>関係者の意見・意向（注5）</p>	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育を望んでおり、所在市町村及び契約相手方からの機軸維持への期待が大きく、引き継ぎ意識の強い関係者である。</p>
<p>（注1）森林調査地は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p>	<p>（注2）森林調査地は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p>
<p>（注3）森林調査地は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p>	<p>（注4）森林調査地は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p>
<p>（注5）関係者の意見・意向</p>	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育を望んでおり、所在市町村及び契約相手方からの機軸維持への期待が大きく、引き継ぎ意識の強い関係者である。</p>
<p>期中評価対象地区の林分に ついて</p>	<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該地区の個々の契約地は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林である。また、当該地区の森林は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林である。</li> <li>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考に、適切な保育管理に努める。</li> </ul>







事業コスト削減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方方の理解を得るなかで運木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによってコスト削減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要している。

（注1）森林調査済地は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注2）森林調査済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施された森林。  
 （注3）森林調査済地は、生育状況を加齢平均したものである。（広葉樹林化したた林分を除く。）  
 （注4）植栽関係者の意見・意向については、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の3等地の散植を1割以上下回る林分を示す。  
 （注5）関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分について	<p>・ 当該地区の伐採地は、伐採後、間伐材等の処理が完了している。伐採地は、伐採後、間伐材等の処理が完了している。伐採地は、伐採後、間伐材等の処理が完了している。伐採地は、伐採後、間伐材等の処理が完了している。</p> <p>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にし、適切な保育管理に努める。</p>



項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名		東北北海道整備局 昭和48年度契約地			
契約件数・面積及び権限面積	契約面積3,924ha、(北海道地区1,848ha、東北地区2,076ha)	契約件数60件	契約面積1,048ha、(トドマツ 401ha、トドマツ 487ha、その他 1ha)		
森林状況の変化	管内の山林整備の進捗状況は、昭和55年度をピークに下落傾向にあり、所有者の自助努力による造林が困難となっている。また、管内の山林整備の進捗状況は、昭和55年度をピークに下落傾向にあり、所有者の自助努力による造林が困難となっている。また、管内の山林整備の進捗状況は、昭和55年度をピークに下落傾向にあり、所有者の自助努力による造林が困難となっている。	明在面積	487ha、(トドマツ 401ha、トドマツ 487ha、その他 1ha)		
公益的施設の整備状況	管内の山林整備の進捗状況は、昭和55年度をピークに下落傾向にあり、所有者の自助努力による造林が困難となっている。また、管内の山林整備の進捗状況は、昭和55年度をピークに下落傾向にあり、所有者の自助努力による造林が困難となっている。	計	487ha、(トドマツ 401ha、トドマツ 487ha、その他 1ha)		
事業の進捗状況(東北)	森林調査状況(面積比率:63%)	樹種	不 良		
事業の進捗状況(東北)	森林調査状況(面積比率:63%)	スギ	広葉樹化	計	
		マツ	10%	生育遅れ(14)	18%
		カラマツ	16%		20%
		トドマツ	10%		15%
		計	16%		18%
事業の進捗状況(北海道)	森林調査状況(面積比率:37%)	スギ	12%		16%
		マツ			
		カラマツ			
		トドマツ			
		計			
事業の進捗状況(北海道)	森林調査状況(面積比率:37%)	樹種	年 育 状 況	計	
事業の進捗状況(北海道)	森林調査状況(面積比率:37%)	スギ	良	普通	100%
		マツ	広葉樹化	生育遅れ	5%
		カラマツ	1%		
		トドマツ	100%		
		計	10%		
事業の進捗状況(北海道)	森林調査状況(面積比率:37%)	樹種	年 育 状 況	計	
事業の進捗状況(北海道)	森林調査状況(面積比率:37%)	スギ	良	普通	100%
		マツ	広葉樹化	生育遅れ	5%
		カラマツ	1%		
		トドマツ	100%		
		計	10%		

(注)生育状況の基準  
 良好：植栽木の1ha当たり成り本数が限界生立本数(森林調査提供数)に於ける  
 普通：植栽木の1ha当たり成り本数が限界生立本数(森林調査提供数)の平均  
 不良：植栽木の1ha当たり成り本数が限界生立本数(森林調査提供数)の平均  
 の下回りの場合、以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均  
 樹高より1.2倍を越えるもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成り本数が限界生立本数(森林調査提供数)の平均  
 の下回りの場合、以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均  
 樹高より1.2倍を越えるもの。  
 不良：植栽木の1ha当たり成り本数が限界生立本数(森林調査提供数)の平均  
 の下回りの場合、以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均  
 樹高より1.2倍を越えるもの。



事業の進捗状況（北海道地区）	森林調査地（注1）	生育状況 （面積比率：30%） （注1）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	1ha当り		不 良	
						広葉樹化	生育遅れ（注4）	計	計
			カラマツ	19.3m	31.1cm	189㎡			
			トドマツ	13.3m	14.1cm	161㎡	16%	2%	18%
			計				11%	2%	13%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。  
 広葉樹化しした生育が遅れている林分は13%である。  
 広葉樹化しした生育が遅れている原因は、雪害が54%と大半を占める。  
 広葉樹化しした生育が遅れている原因は、雪害が69%と大半を占める。

事業の進捗状況（北海道地区）	森林調査地（注2）	生育状況 （面積比率：70%） （注2）	樹種	生育状況			計	1ha当り	不 良
				良	普通	広葉樹化			
			スギ						
			カラマツ						
			トドマツ	100%	100%	100%	100%		
			アカエゾマツ	90%					
			その他						
			計	8%	74%	18%	18%	100%	

（注1）生育状況の基準  
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数以上1.2倍以下であるが、樹高が幹線別限外生育立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数以上1.2倍以下であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。  
 不良：（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数以上1.2倍以下であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数未満であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数未満であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（d）広葉樹化した林分のものであるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（e）広葉樹化した林分のものであるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。  
 樹種別に不良の割合をみると、トドマツで100%、樹種計で18%である。

事業の進捗状況（東北地区）	森林調査地（注1）	生育状況 （面積比率：91%） （注1）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	1ha当り		不 良	
						広葉樹化	生育遅れ（注4）	計	計
			スギ	13.4m	19.4cm	249㎡	10%	3%	13%
			マツ	12.4m	17.6cm	174㎡	16%	4%	20%
			カラマツ	15.1m	18.8cm	163㎡	14%	7%	21%
			計				12%	4%	16%

（注1）生育状況の基準  
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数以上1.2倍以下であるが、樹高が幹線別限外生育立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数以上1.2倍以下であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。  
 不良：（a）植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数以上1.2倍以下であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数未満であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限外生育立本数未満であるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（d）広葉樹化した林分のものであるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。（e）広葉樹化した林分のものであるが、樹高が周辺の平均胸高直径の1.2倍を超えていないもの。  
 樹種別に不良の割合をみると、スギで6%、樹種計で2%である。

事業の進捗状況（東北地区）	森林調査地（注2）	生育状況 （面積比率：9%） （注2）	樹種	生育状況			計	1ha当り	不 良
				良	普通	広葉樹化			
			スギ	94%					
			マツ	100%					
			カラマツ	100%					
			その他	100%					
			計	98%	3%	3%	3%	100%	

樹種別に不良の割合をみると、スギで6%、樹種計で2%である。





項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	頁北北海道整備局 昭和53年度契約地																																											
契約件数・面積及び植栽面積	契約面積 3,487ha (北海道地区 1,123ha、東北地区 2,364ha)	トドマツ 292ha、その他 4ha																																										
森林状況の変化	管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明な部分を除く。管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明な部分を除く。	トドマツ 292ha、その他 4ha																																										
機能的観点からの重要施設及び官民共同の整備状況	管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明な部分を除く。	トドマツ 292ha、その他 4ha																																										
森林調査状況 (表1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>樹種</th> <th>平均樹高</th> <th>平均胸高直径</th> <th>残存ha</th> <th>不</th> <th>良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>13.4m</td> <td>18.6cm</td> <td>254m<sup>2</sup></td> <td>10%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>12.0m</td> <td>15.9cm</td> <td>258m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td>12.7m</td> <td>16.0cm</td> <td>190m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td>17.0m</td> <td>19.5cm</td> <td>227m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>トドマツ</td> <td>10.7m</td> <td>12.7cm</td> <td>123m<sup>2</sup></td> <td>8%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	樹種	平均樹高	平均胸高直径	残存ha	不	良	スギ	13.4m	18.6cm	254m <sup>2</sup>	10%	2%	ヒノキ	12.0m	15.9cm	258m <sup>2</sup>			マツ	12.7m	16.0cm	190m <sup>2</sup>			カラマツ	17.0m	19.5cm	227m <sup>2</sup>		9%	トドマツ	10.7m	12.7cm	123m <sup>2</sup>	8%	2%	計					10%	<p>広葉樹化 10%</p> <p>生育遅れ (表4)</p> <p>計 12%</p>
樹種	平均樹高	平均胸高直径	残存ha	不	良																																							
スギ	13.4m	18.6cm	254m <sup>2</sup>	10%	2%																																							
ヒノキ	12.0m	15.9cm	258m <sup>2</sup>																																									
マツ	12.7m	16.0cm	190m <sup>2</sup>																																									
カラマツ	17.0m	19.5cm	227m <sup>2</sup>		9%																																							
トドマツ	10.7m	12.7cm	123m <sup>2</sup>	8%	2%																																							
計					10%																																							
森林調査未済地 (表2)	<p>生育状況 (面積比率: 75%)</p> <p>林化された森林の割合は、広葉樹が41%と最も多い。</p>	<p>生育状況 (面積比率: 25%)</p>																																										
森林調査未済地 (表2)	<p>生育状況 (面積比率: 25%)</p>	<p>生育状況 (面積比率: 25%)</p>																																										

事業の進捗状況 (北海道地区)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 28%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	積1ha当り	不良	
							広葉樹化	生育遅れ (注4)
			カラマツ	18.0m	20.2cm	266m <sup>2</sup>		
			トドマツ	11.4m	14.7cm	123m <sup>2</sup>		
			計					

平均樹高及び平均胸高直径の數値は、サンプル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。

該当なし。

(注)生育状況の基準  
 良好: 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)における樹齢別限界生育立本数(以下同じ)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通: 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良: (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(d)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(e)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(f)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。

樹種	生育状況			計
	良好	普通	不良	
カラマツ	82%	18%	0%	100%
トドマツ	95%	4%	0%	100%
その他				
計	87%	13%	0%	100%

樹種別に不良の割合をみると、トドマツで18%、アカエゾマツで4%、樹種計で13%である。

事業の進捗状況 (東北地区)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 89%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	積1ha当り	不良	
							広葉樹化	生育遅れ (注4)
			スギ	13.4m	18.6cm	264m <sup>2</sup>	10%	2%
			ヒノキ	12.0m	16.9cm	258m <sup>2</sup>		
			マツ	12.7m	15.0cm	190m <sup>2</sup>		
			カラマツ	12.5m	15.4cm	125m <sup>2</sup>	22%	2%
			計				9%	11%

平均樹高及び平均胸高直径の數値は、サンプル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。

広葉樹化の生育遅れは11%である。  
 植栽木の生育遅れは75%と大半を占める原因は、積雪・凍害による積雪・凍害による生育遅れが原因である。

樹種	生育状況			計
	良好	普通	不良	
スギ	100%	0%	0%	100%
ヒノキ	100%	0%	0%	100%
マツ	100%	0%	0%	100%
カラマツ	100%	0%	0%	100%
その他				
計	100%	0%	0%	100%

(注)生育状況の基準  
 良好: 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)における樹齢別限界生育立本数(以下同じ)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通: 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良: (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(d)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(e)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(f)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(植林面を単位に)の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。



<p>事業コスト削減の可能性</p>	<p>間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用したた強度な間伐等）することにより、コスト削減を図る。</p> <p>適切な森林整備の完済により、人工林の虫害として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等において、適切な間伐計画の策定と、山林と同等の生育をしておき、所定市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きくなり、引き継ぎを要している。</p>
<p>景観への配慮</p>	<p>周辺作業の計画的な実施を要している。</p>
<p>関係者の意見・意向（注5）</p> <p>（注1）森林調査 （注2）森林調査 （注3）森林調査 （注4）森林調査 （注5）森林調査</p>	<p>（注1）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p> <p>（注2）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p> <p>（注3）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p> <p>（注4）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p> <p>（注5）森林調査は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。</p>
<p>期中いつ</p> <p>評価の実施地区の林分に</p>	<p>留意事項</p> <p>・ 当該管理区域の伐採地は、伐採地が伐採されたことにより、伐採地の生育状況が回復するまでに時間がかかる。伐採地の生育状況を定期的に調査し、必要に応じて適切な管理を行うこととする。</p> <p>・ 当該管理区域の伐採地は、伐採地が伐採されたことにより、伐採地の生育状況が回復するまでに時間がかかる。伐採地の生育状況を定期的に調査し、必要に応じて適切な管理を行うこととする。</p>

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	東北北海道整備局 昭和58年度契約地																																																										
契約件数・面積及び植栽面積	<p>契約件数24件 契約面積787ha（北海道地区371ha、東北地区416ha）</p> <p>植栽面積 スギ 266ha ヒノキ 5ha マツ 16ha カラマツ 56ha トドマツ 103ha 7かエゾマツ 68ha                      （うち北海道 12ha - ha - ha 88ha）</p>																																																										
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化	<p>東北北海道整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在もなお12万ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。</p> <p>東北北海道整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、そのうち約3割は県外在住者で全国平均より下回っているもの、地域の森林の管理水型の低下が危惧される。</p> <p>私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林掘掘別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が8割を占めているものの、面積は4割程度である。木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。</p> <p>東北北海道整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体的による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ低いものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。</p>																																																										
公営的機能からの重要性及び買収度、関連公共施設の整備状況	<p>北上川水系栗駒ダム、最上川水系上郷ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち17%が存在している。</p> <p>簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち25%が存在している。</p>																																																										
<p>事（東北の進捗状況）</p> <p>生育状況</p>	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生育立木数（森林国営農林（森林国営農林）における齢級別限界生育立木数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生育立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生育立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生育立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生育立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。</p> <p>(広葉樹等の養生天然生樹木が過半を占める林分)</p> <table border="1" data-bbox="1069 1164 1404 1836"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>良好</th> <th>普通</th> <th>広葉樹化</th> <th>不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>23%</td> <td>76%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td>31%</td> <td>69%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>トドマツ</td> <td>32%</td> <td>67%</td> <td>1%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アケボノマツ</td> <td>32%</td> <td>68%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26%</td> <td>73%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、トドマツで1%、カラマツで1%である。</p>	樹種	生育状況				計	良好	普通	広葉樹化	不良	スギ	23%	76%	1%	1%	100%	ヒノキ		100%			100%	マツ		100%			100%	カラマツ	31%	69%			100%	トドマツ	32%	67%	1%		100%	アケボノマツ	32%	68%			100%	その他						計	26%	73%	1%	1%	100%
樹種	生育状況				計																																																						
	良好	普通	広葉樹化	不良																																																							
スギ	23%	76%	1%	1%	100%																																																						
ヒノキ		100%			100%																																																						
マツ		100%			100%																																																						
カラマツ	31%	69%			100%																																																						
トドマツ	32%	67%	1%		100%																																																						
アケボノマツ	32%	68%			100%																																																						
その他																																																											
計	26%	73%	1%	1%	100%																																																						



事 業 の 進 捗 状 況	樹 種	生 育 状 況			
		良	普通	広葉樹化	不良
北 海 道 の 道 道 状 況	スギ		100%		計 100%
	カラマツ		100%		計 100%
	トドマツ	32%	67%	1%	計 100%
	アケボノマツ	32%	68%		計 100%
	その他				
	計	29%	70%	1%	計 100%
樹種別に不良の割合をみると、トドマツで1%、樹種計で1%である。					

(注)生育状況の基準  
 良好：植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数(森林区管採伐における新設別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通：植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分  
 (a)植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。  
 (広葉樹等の発生天然性樹木が過半を占める林分)

事 業 の 進 捗 状 況	樹 種	生 育 状 況			
		良	普通	広葉樹化	不良
東 北 地 区 の 道 道 状 況	スギ	25%	74%		計 100%
	ヒノキ		100%		計 100%
	マツ		100%		計 100%
	カラマツ	34%	66%		計 100%
	その他				
	計	24%	75%	1%	計 100%
樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、樹種計で1%である。					
事後の除伐に当たっては、道期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を優先し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。	事後の除伐に当たっては、道期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を優先し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。				
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。				
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機密発掘への期待が大きく、引き続き道期作業の計画的な実施を要望している。				

(注)生育状況の基準  
 良好：植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数(森林区管採伐における新設別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通：植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分  
 (a)植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の15a当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。  
 (広葉樹等の発生天然性樹木が過半を占める林分)

(注)関係者の意見・意向については、平成16年度アンケート調査によるものである。

	留意事項
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<p>当該地区の個々の契約地の生育状況を見くと、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。</p> <p>なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。</p> <p>枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。</p> <p>過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。</p>



項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	東北北海道整備局 昭和63年度契約地																																																	
契約件数・面積及び植栽面積  森林・林業情勢、農山村の状況、その他の社会情勢の変化	契約件数42件 契約面積1,684ha（北海道地区703ha、東北地区981ha） 植栽面積 スギ 370ha ヒノキ 27ha マツ 7ha カラマツ 131ha トドマツ 203ha アサリ*マツ 188ha その他 9ha （うち北海道 - ha - ha - ha 77ha 203ha 188ha - ha）  東北北海道整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在もなお12万ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 東北北海道整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、そのうち約3割は県外在住者で全国平均より下回っているもの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林業の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が8割を占めているものの、面積は4割程度である。木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下客傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。 東北北海道整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ低いものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。																																																	
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	最上川水系上郡ダム、北上川水系田瀬ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち40%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち7%が存在している。																																																	
事（東の北進北海抄状況）	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>広葉樹化遅れ</th> <th>不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>10%</td> <td>89%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>4%</td> <td>92%</td> <td>4%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td>51%</td> <td>44%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>トドマツ</td> <td>36%</td> <td>64%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アサリ/マツ</td> <td>37%</td> <td>63%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>24%</td> <td>75%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで4%、カラマツで5%、トドマツで1%である。</p> <p>(注)生育状況の基準                      良好：植栽木の1ha当たり成立本数が県産生立本数（森林国営供出における幹選別県産生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.3倍を超えるもの。                      普通：植栽木の1ha当たり成立本数が県産生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。                      不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分                      (a)植栽木の1ha当たり成立本数が県産生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの、(b)植栽木の1ha当たり成立本数が県産生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの、(c)植栽木の1ha当たり成立本数が県産生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの、(d)広葉樹化した林分のもの、(広葉樹等の養生天然性樹木が過半を占める林分)</p>	樹種	生育状況				良	普通	広葉樹化遅れ	不良	スギ	10%	89%	1%	100%	ヒノキ	4%	92%	4%	100%	マツ		100%		100%	カラマツ	51%	44%	1%	100%	トドマツ	36%	64%		100%	アサリ/マツ	37%	63%		100%	その他		100%		100%	計	24%	75%	1%	100%
樹種	生育状況																																																	
	良	普通	広葉樹化遅れ	不良																																														
スギ	10%	89%	1%	100%																																														
ヒノキ	4%	92%	4%	100%																																														
マツ		100%		100%																																														
カラマツ	51%	44%	1%	100%																																														
トドマツ	36%	64%		100%																																														
アサリ/マツ	37%	63%		100%																																														
その他		100%		100%																																														
計	24%	75%	1%	100%																																														

事 業 の 地 区 の 概 況	生 育 状 況	樹 種	生 育 状 況			
			良	普通	不良	計
事 業 の 北 部 地 区 の 概 況	生 育 状 況	スギ				
		カラマツ	100%			100%
		トドマツ	36%	64%		100%
		アカエノマツ	37%	63%		100%
		その他				
計	47%	53%		100%		

(注)生育状況の概要

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保護における普通別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分

(a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの、(広葉樹等の復生天然性苗木が過半を占める林分)

事 業 の 北 部 地 区 の 概 況	生 育 状 況	樹 種	生 育 状 況			
			良	普通	不良	計
事 業 の 北 部 地 区 の 概 況	生 育 状 況	スギ	10%	89%	1%	100%
		ヒノキ	4%	92%	4%	100%
		マツ		100%		100%
		カラマツ		90%	2%	100%
		その他		100%		100%
計	8%	90%	1%	100%		

(注)生育状況の概要

良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保護における普通別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分

(a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの、(広葉樹等の復生天然性苗木が過半を占める林分)

事業コスト削減の可能性  
今後の除伐に当たっては、速期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保険するなど、針広混交材等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。  
また、枝打に当たっては、生育及び産出条件の良好な箇所を選択し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。

景観への配慮  
適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。

関係者の意見・意向  
周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能確保への期待が大きく、引き続き産出量の計画的な実施を要望している。

(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。



留 意 事 項	
<p>期中実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該地区の種々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水質かん養機能の発揮を図っていく。</li> <li>・ なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化している一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。</li> <li>・ 枝打については、生育状況の悪い区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。</li> <li>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にし、適切な保育管理に努める。</li> </ul>

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	東北北海道整備局 平成5年度契約地																																																				
契約件数・面積及び植栽面積	<p>契約件数54件 契約面積932ha（北海道地区282ha、東北地区650ha）                  植栽面積 スギ 394ha ヒノキ 33ha カラマツ 62ha トドマツ 6ha アカエマツ 154ha その他 14ha                  （うち北海道 - ha - ha 44ha 154ha - ha）</p>																																																				
森林・林業情勢、農山村の状況、その他の社会情勢の変化	<p>東北北海道整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在もなお12万ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。                  なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。                  東北北海道整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、増加傾向にあり、そのうち約3割は県外在住者で全国平均より下回っているもの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。                  私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林架橋別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が8割を占めているものの、面積は4割程度である。                  木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自助努力による造林が困難となっている。                  東北北海道整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ低いものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。</p>																																																				
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	<p>北上川水系花山ダム・鳴子ダム等に係る灌漑（集水区域）内に当該契約面積のうち13%が存在している。                  簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち38%が存在している。</p>																																																				
事（東の北北北海道状況）	<p>（注）生育状況の整理                  良好：植栽木の1ha当たり成立本数が境界生立本数（森林面営林数）における幹線別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。                  普通：植栽木の1ha当たり成立本数が境界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.6倍以上1.2倍以下のもの。                  不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に亘分                  （a）植栽木の1ha当たり成立本数が境界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの、（b）植栽木の1ha当たり成立本数が境界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの、（c）植栽木の1ha当たり成立本数が境界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの、（d）広葉樹化した林分のもの。                  （広葉樹等の養生天然性苗木が過半を占める林分）</p> <table border="1" data-bbox="1058 120 1452 1863"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>広葉樹化</th> <th>不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>13%</td> <td>83%</td> <td></td> <td>4%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>3%</td> <td>97%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td>11%</td> <td>89%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>トドマツ</td> <td>33%</td> <td>67%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アカエマツ</td> <td>38%</td> <td>55%</td> <td>7%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18%</td> <td>78%</td> <td>4%</td> <td>4%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで4%、アカエマツで7%、樹種計で4%である。</p>	樹種	生育状況				計	良	普通	広葉樹化	不良	スギ	13%	83%		4%	100%	ヒノキ	3%	97%			100%	カラマツ	11%	89%			100%	トドマツ	33%	67%			100%	アカエマツ	38%	55%	7%		100%	その他		100%			100%	計	18%	78%	4%	4%	100%
樹種	生育状況				計																																																
	良	普通	広葉樹化	不良																																																	
スギ	13%	83%		4%	100%																																																
ヒノキ	3%	97%			100%																																																
カラマツ	11%	89%			100%																																																
トドマツ	33%	67%			100%																																																
アカエマツ	38%	55%	7%		100%																																																
その他		100%			100%																																																
計	18%	78%	4%	4%	100%																																																



事業 （東北 の海 道 進 捗 状 況）	生育状況	樹種	生育状況								
			良	普通	不良		計				
					広葉樹化	生育遅れ		小計			
	生育状況	スギ									
		カラマツ		100%							100%
		トドマツ	33%	67%							100%
		アカエゾマツ	38%	55%	7%						100%
		その他									
		計	30%	65%	5%	5%					100%
樹種別に不良の割合をみると、アカエゾマツで7%、楷種計で5%である。											

(注)生育状況の基準  
 良好：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数（森林型管理林における齢級別限界生立木数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分  
 (a)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。  
 (広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)

事業 （東北 の海 道 進 捗 状 況）	生育状況	樹種	生育状況								
			良	普通	不良		計				
					広葉樹化	生育遅れ		小計			
	生育状況	スギ	13%	83%	4%						100%
		ヒノキ	3%	97%							100%
		マツ	39%	61%							100%
		その他		100%							100%
		計	13%	84%	3%	3%					100%
樹種別に不良の割合をみると、スギで4%、楷種計で3%である。											
事業 の 性	コスト削減の可能性	今後の除伐に当たっては、速期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は残存するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び産出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。									
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。										
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き継ぎ道期作業の計画的な実施を要望している。										

(注)生育状況の基準  
 良好：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数（森林型管理林における齢級別限界生立木数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分  
 (a)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。  
 (広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)

(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。

	留意事項
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該地区の種々の契約地の生育状況を見と、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を促している一部の林分についていく。今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。</li> <li>・ 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。</li> <li>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。</li> </ul>



項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	東北北海道整備局 平成10年度契約地																																												
契約件数・面積及び植栽面積	契約件数46件 契約面積1,272ha(北海道地区715ha、東北地区556ha) 植栽面積 スギ 403ha ヒノキ 42ha カラマツ 15ha トドマツ 9ha うち北海道 - ha - ha 5ha その他 61ha 42ha																																												
森林・林業情勢、農山村の状況、その他の社会情勢の変化	東北海道整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は増加傾向にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在もなお12万ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 なお、民有林の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 東北海道整備局管内の都道府県における私有林のうち不在所有者所有森林は、増加傾向にあり、そのうち約3割は県外在住者で全国平均より下回っているものの、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha~10ha未満の林家が8割を占めているものの、面積は4割程度である。木材価格の推移をみると、昭和55年をピークに下落傾向にあり、所有者等の自励努力による造林が困難となっている。 東北海道整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林開拓整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は、全国の比率に比べ低いものの、増加傾向にあり、公的主体の果たす役割は引き続き大きい。																																												
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況	鳴瀬川水系宮米ダム、北上川水系幾川ダム等に併る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち8%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち35%が存在している。																																												
事業の北進捗状況(業真の北進北海道状況)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>広葉樹化</th> <th>不良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>11%</td> <td>89%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td></td> <td>98%</td> <td>2%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td>38%</td> <td>62%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>トドマツ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アカエゾマツ</td> <td></td> <td>97%</td> <td>3%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7%</td> <td>92%</td> <td>1%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生育状況に不良の割合をみると、ヒノキで2%、アカエゾマツで3%、樹種計で1%である。</p>	樹種	生育状況				良	普通	広葉樹化	不良	スギ	11%	89%		100%	ヒノキ		98%	2%	100%	カラマツ	38%	62%		100%	トドマツ		100%		100%	アカエゾマツ		97%	3%	100%	その他		100%		100%	計	7%	92%	1%	100%
樹種	生育状況																																												
	良	普通	広葉樹化	不良																																									
スギ	11%	89%		100%																																									
ヒノキ		98%	2%	100%																																									
カラマツ	38%	62%		100%																																									
トドマツ		100%		100%																																									
アカエゾマツ		97%	3%	100%																																									
その他		100%		100%																																									
計	7%	92%	1%	100%																																									

(注)生育状況の基準  
 良：植栽木の1ha当たり成立本数が県界生立木数(新開園営林軌における齢級別県界生立木数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。  
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が県界生立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。  
 不良：(a)~(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分  
 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が県界生立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が県界生立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.3倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が県界生立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。  
 (広葉樹等の発生天然性樹種が過半を占める林分)

事業の進捗状況	生育状況	樹種	生育状況			
			良	普通	広葉樹化	不良
	生育状況	スギ				計
		カラマツ		100%		100%
		トドマツ		100%		100%
		アカエゾマツ		97%	3%	100%
		その他		100%		100%
		計	97%	3%	100%	
樹種別に不良の割合をみると、アカエゾマツで3%、樹種計で3%である。						

(注)生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数（森林区営林業における齢級別限界立木数）で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分

(a) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.3倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの、(広葉樹等の発生天然生樹木が選定を占める林分)

事業の進捗状況	生育状況	樹種	生育状況			
			良	普通	広葉樹化	不良
	生育状況	スギ	11%	89%		計
		ヒノキ		98%	2%	100%
		カラマツ	100%			100%
		その他		100%		100%
		計	10%	90%	2%	100%
樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで2%、樹種計で0%である。						

(注)生育状況の基準

良好：植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数（森林区営林業における齢級別限界立木数）で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。

普通：植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。

不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分

(a) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.3倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの、(広葉樹等の発生天然生樹木が選定を占める林分)

事後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。  
また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所に配慮し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。

景観への配慮  
適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材材を利用した工法の採用を進めている。

関係者の意見・意向  
周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの標準確保への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

(注)関係者の意見・意向については、平成15年度アンケート調査によるものである。



	留意事項
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地区の個々の契約地の生育状況を見直し、植栽木が傾倒に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発現が遅れている一部の林分を見直し、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行うなど、適正な保育管理を確保する。</li> <li>植栽木が傾倒に生育しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じて除伐を見合わせるなど計画的な実施を図る。</li> <li>伐打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。</li> <li>過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にし、適切な保育管理に努める。</li> </ul>